

2022(令和4)年度第2回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
大山田地域部会 議事概要

- 開催日時 2022(令和4)年10月14日(金)
午前10時00分～午前11時30分
- 開催場所 大山田農村環境改善センター 2階 大会議室
- 出席者 (敬称略)

【委員】

出席：奥井 威夫(阿波地域住民自治協議会 会長)
番條 克治(布引地域住民自治協議会 会長)
奥 千史(山田地域住民自治協議会 会長)
中尾 清巳(阿波地区区長会 会長)
中川 博昭(布引地区区長部会 部会長)
宮崎 孝志(山田地区区長会 会長
代理 山田地区区長会 副会長 東 義彦)
滝 弘之(大山田地区老人クラブ連合会 会長)
福平 悟(大山田地区民生委員児童委員協議会 会長)
福地 申大(伊賀市障害者福祉連盟大山田支部 支部長)
中森 研(伊賀市社会福祉協議会地域支援課 課長
代理 末廣 紀子)
橋本 敏明(伊賀市商工会大山田支所 支部長)

【事務局】

交通政策課：課長 井上 忠生、主幹 坂森 莊平、主査 中川 達司

- 傍聴者 1人

■会議概要

1. 開会 挨拶：交通政策課 井上 忠生課長
2. 協議事項
(1) 新たな運行形態の導入について

事務局から資料1に基づき説明。委員から意見を聴取。

【質疑応答】

部委員	資料1の基礎資料P.3、大山田地区の「公共交通を使った外出スタイル(この1年間の市内の公共交通の利用)」が22.2%、「今後のバスの利用意向(今後も利用し続ける+将来は利用する)」が60.3%となっていますが、これはどういうことを意味しているのですか。この1年間の公共交通の利用が22.2%なのに、将来的に
-----	---

	は、60.3%の数字になるというは、これはどう捉えていますか。
事務局	60.3%の今後のバスの利用意向については、今もバスを利用しているし、今後も利用し続けるという方と、今は使っていないが将来はバスを利用したいという方の合算になっています。将来、歩くのが辛くなったらバスに乗りたいという方はたくさんおられますが、ただそれが実利用に結びついていないということがあります。実際に、歩くのが困難になり、自分で車を運転できないとなった場合に、次の選択肢として、バスの便数が少ないということもあるかもしれませんが、家族に送迎してもらうとか、あるいは福祉施設の送迎車を使うとか、身体障害者手帳お持ちの方であれば福祉有償運送のサービスを使うなど、なかなか公共交通機関の利用に結びついていないということがあり、その実情が60.3%に反映されているのではないかと思います。
部委員	今は、車社会なので、バスに乗って上野へ行く方は少ないと思う。バスをよく見かけるが、ほとんど人が乗っていない印象である。買い物をしたい高齢者のひとり世帯の方は、商品の値段が割高になっているようですが、JAの移動販売を使っている。これからは、バス代も高いので、こちらから出ていくというよりも、移動販売などで買い物をするスタイルに変わっていくのかもしれない。
部委員	バス代が高い、阿波から上野まで行くとバス代が970円かかる。今は、阿波から上野を往復すると2,000円ちかくかかる。昔は、90円であった。昔は、こんなにも車がなかったので、みんなバスに乗っていた。
部委員	島ヶ原のスクールバスはどのようなになっているのですか。
事務局	大山田の虹ヶ丘の子どもたちのように、島ヶ原の山菅と不見上の子どもたちも、スクールバスの代わりに、行政バスに乗っていただいています。今回、島ヶ原地区でデマンド等の導入を検討するにあたり、子どもたちのスクール利用が課題となっています。
部委員	JAが移動販売をしているということであるが、生協も移動販売を行っており、コロナ禍で注文が増えていると聞いています。阿波地域では、「まごの手号」を運行しており、山田地域でもそういった買い物バスを上野まで運行してはどうかという話が出たが、山田地域にはアニーズに「さんぺい」があるので、「さんぺい」を差し置いて他所に買い物に行くのはいかがなものかということで、その話は、断ち切れになっている。
部委員	青山の行政バスを利用する方は、どのような方が多いのか。
事務局	桐ヶ丘の方が多いと思われます、高尾や種生からも固定の方が利用されています。青山の行政バスは、近鉄大阪線に乗り継ぎ大阪

	方面へ行けるようダイヤを考えています。桐ヶ丘の方は、大阪から来ている方が多いため、大阪方面へ近鉄に乗って日常的に買い物に行く方もお見えになると聞いています。
部委員	大山田のバスをどうしようこうしようという案は出てこないと思う。皆、軽トラに乗っている。新しい運行形態を導入して、半分も乗ってくれるかというとな難しいと思う。
部委員	資料１の基礎情報の P.1 で、収支率が大山田は 7.3%となっているがこの計算方法は。
事務局	この収支率は、運賃収入を単純に運行経費で割り算をしています。
部委員	大山田地区の収支率は 7.3%で、市負担額が 511 万円。それに対して、上野地区の収支率は 7.7%で、市負担額は 4 千万円ちかくかかっている。先ほどの話では、上野地区は、他地区の方も乗るため、利用促進等の取り組みを行うということであるが、市負担額を減らすつもりはあるのか。全体的にも、市負担額を減らす方向に行くのか。
事務局	上野地区が 18,000 人乗っているから良いというのではなく、どの地区の路線にも問題があります。大山田地区は、バス 1 台で年間約 5 百万円かかっている、上野地区に関しては、バス 2 台で年間約 4 千万円かかっているなかで、1 人か 2 人しか乗っていないという状況は、問題があると思っています。上野地区については、利用する人たちの範囲が広く、利用する方の総数も多いので、行政バスを見直す中では、デマンド的な個別輸送には向かないということです。いずれにしてもすべての路線がたくさんの赤字を抱えているため、何かしらの見直しが必要になってきています。
部委員	伊賀市は支所管内それぞれで行政バスを運行しているが、上野へ来る観光客を大山田に誘導できるよう、上野からさるびの温泉へ直通で行けるようなバスを運行するとか、大山田の住民からは、市民病院や岡波病院に行きたいという要望があるので、エリアを取っ払って大山田から上野へ直接行けるようなバスを運行すると、利用者も増えるのではないかと。
部委員	大山田地区で、大沢から乗る人と布引から乗る人とどっちが多いのか。
事務局	布引から乗る人の方が多いと思います、最近では、大沢から乗る人はすごく減っていると思います。
部委員	市街地と周辺地域とは生活環境が全然違うと思う、乗車人数の数値で検討されているが、公共交通機関の使用目的の調査はされているのか。
事務局	島ヶ原地区は、昨年、地域が自主的に、使用目的等の細かい調査

	をされています。そういった調査結果があるというのも、モデル地区を島ヶ原に決定したひとつの理由です。いずれは、すべての地区で使用目的等の調査は必要だと思っています。
事務局	神戸地区が自主的に運行している地域運行バスという制度もあります。それには、市が運行経費の８割を負担しています。具体的には、全体の運行経費約 150 万円のうち、市が 120 万円負担し、運賃収入がおおよそ 20 万円で、残りの 10 万円程度を自治協が出して運行しています。神戸地区の皆さんが自主的に考え、使い易い時間帯に、青山の A コープや、青山支所等に行っており、1 便あたり 3 人を目標にしていたが、今は 4 人が常に乗っている状態で、良い形で運行されています。 次のステップとして、そういう事例とか、島ヶ原地区の状況などを紹介させていただき、違う手法の行政バスを検討したいと思いますので、ご意見等を頂戴できればと思っています。
部委員	個人の方から社協へ公共交通についての相談がある。例えば、大沢の方から行政バスでアニーズに買い物に行きたいが、帰りの便が午後 2 時なので利用しづらいとか、虹ヶ丘の方からは、伊賀神戸まで行きたいが行政バスでは、本数が少なくて行けない、介護保険の制度には適用しないがスムーズに歩けない制度のはざ間の方から、バス停まで遠いし、買い物の荷物も重たくて持てないなどのご意見をいただいている。
事務局	これからは、青山地区でやっているような社協さんの買い物バスを大山田地区でやった方が良いのかなど、社協さんも含め、福祉部局とも連携し考えたいと思っています。
部委員	大山田は、高齢化が進んでいる地区で、車の免許も返納して車を運転できない、そして、子どもも家にいないので、自由に病院や買い物に行けない人が増えてくると思う。そういうことから考えると、自由に病院や買い物に行けることができるタクシーを呼び、それに市が補助するといった制度を考えていただきたい。
事務局	タクシーチケットについては、他の地域部会でも意見が出ていましたので、考えていきたいと思っています。

（２）行政サービス巡回車へのフリー乗降の導入について

事務局から資料 2 に基づき説明。委員から意見を聴取。

【質疑応答】

部委員	バスの乗車には、はっきりと手を挙げて、乗車の意志を示すとなっているが、手を挙げるだけでは、運転手さんが本当に乗るのか乗らないのかわからないのではないかと。ふざけて手を挙げる子ども
-----	--

	ももいるのではないか。
事務局	運転手さんも住民の皆さんもフリー乗降に慣れれば、そういう問題はなくなると思いますが、導入当初は、おっしゃるとおり、この人乗るのか乗らないのか微妙な時があると思いますので、運転手さんには、注意して確認するよう徹底させていただきたいと思います。
部委員	このフリー乗降は、他の行政バスもやっているのか。
事務局	阿山の行政バスでは、既に導入しております。いがまちの行政バスでは、希望ヶ丘の方からフリー乗降を導入してほしいという要望があり、今回、大山田と同じタイミングでフリー乗降を導入したいと考えております。

3. その他 特になし

(終 了)